

これは、済いません。

○議長（堀江 政武君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 佐須体育館の老朽化による対応策についてでございますが、今年度、小茂田浜地区より佐須体育館の老朽化及び破損等による災害防止についての陳情、要望がありまして、区長と連絡をとり、去る5月11日に現場で詳細をお伺いしたところでございます。

佐須体育館は昭和58年に建設され、老朽化が著しく、建物の外壁、屋根の軒部分が剥がれ落ちるなど、周辺に危険が及ぶこともあり、落下注意の看板を張り、注意を促している現状であります。教育委員会といたしましても、施設の安全性を優先し、解体することも含めて、その利活用について地域の皆様、関係部署等と協議を図りながら、早期の対応ができるように努めてまいりたいと考えております。その間、地域の皆様には、御不便をおかけいたしますけれども、御理解いただきますよう、よろしく願いをいたします。

○議長（堀江 政武君） 時間になりましたので、簡明にお願いします。4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） もう時間来ましたのでやめますが、まだ言いたいことはありますがやめますが、教育長、そこひとつよろしく願いしときます。

それから、市長、先ほど言いましたこともしっかり腹に入れていただいて、責任持って外国とは対応していかなと、足元見られると、大変なことになりますから、せっかく今いい方向に行ってますんで、そこら辺しっかりよろしくお願いします。

終わります。

○議長（堀江 政武君） これで、清風会の会派代表質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時、休憩します。再開は11時15分からとします。

午前10時58分休憩

午前11時14分再開

○議長（堀江 政武君） 報告します。渕上議員より早退の届け出がっております。

再開します。

休憩前に引き続き、会派代表質問を行います。新政会、17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） おはようございます。17番、新政会の会長を務めさせてもらっています大部です。

今回は、特別な会派代表質問、通常ならば、12月と3月となっておりますが、せんだっての市長選におきまして、めでたく対馬のかじ取り役の市長に当選をされ、本当におめでとうございます。新市長となられたことで、比田勝市長の対馬に対する強い思いが、せんだってありました

4月25日の臨時市議会において市長の所信表明で理解もできますが、もう少し詳細にお聞きをし、市民にも納得のいく説明を求めたいと思います。

私たち新政会は、何回も繰り返し協議をした結果、4つの質問をさせていただきます。

まず、第1に、対馬の水産資源や林産資源を活用し、ふるさと納税制度の返礼品として積極的に取り組み、雇用と所得の拡大を図ろうとしているが、どのような取り組みをしていくのかお尋ねをします。

2問目、対馬の新鮮な魚介類とおいしくて新鮮な対馬産の食材の供給システム構築のため、配送センターの整備を進めるとのことですが、どのような進め方をするのかをお尋ねします。

3問目、現在運航をしているJR九州の比田勝と博多間の国際航路に国内客も乗船できるように要望を続けているとのことですが、今後の進め方についてお尋ねします。

4問目、国境離島新法が29年4月1日から施行され、今後10年間の地域振興の後ろ盾ができましたが、どのような取り組みをされるのか。また、十数年前から浅茅湾パールライン構想がありました。対馬は2つの橋で上から下までつながっておりますが、万が一のことを考え、新ルートの開設は考えられないかをお尋ねします。

私たち新政会のほうといたしましては、関連の質問を小川議員がこの題も重点的に持ってきましたけれども、会長がやってくださいということですので、私がまとめてさせていただきますので、まずもって了承をお願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 新政会、大部議員の質問にお答えいたします。

私は、交流人口の拡大を図るためには、農林水産業の活性化が必須であるということを選挙のときから訴えてまいりました。所信表明でも述べさせていただいておりますが、農林水産業の活性化を市の最優先課題として捉え、ふるさと納税制度を活用し、島の特産品を返礼品として積極的に採用することで、雇用の場と所得の拡大を目標として掲げているところでございます。

しかしながら、特産品の返礼品として扱うふるさと納税の仕組みの導入だけでは、特産品の需要拡大、ましては雇用の場の確保は、他の自治体の例を見ましても一朝一夕に望めるものとは考えておりません。全国的に返礼品として特産品を取り扱う自治体が多い中、寄附者の皆様に選んでいただける魅力的な特産品の開発や体験型メニュー、寄附金の活用策をいかに作り出せるかということが、成否を分ける決め手になるものと考えております。

本年度は事業初年度であり、短いスケジュール期間を勘案しますと、特産品の開発、新たな産業の創出につなげることは、生産事業者の皆様や市にとりましても困難であると考えてはおりますが、次年度に向けての足がかりとして本年度からプロジェクトチームを立ち上げ、制度の運用や返礼品に関する方針等の検討を行っており、関係各部署、機関と連携し、ふるさと納税制度の

再構築に向けた取り組みを進めてまいります。

今回、6月補正予算におきましては、他の自治体との差別化を図るために、対馬の魅力発信とあわせた特産品のストーリー化を図った広報、拡散の仕組みづくり等、特産品を返礼品として取り扱うふるさと納税制度の構築に関する予算を計上させていただいております。

今後、ふるさと納税制度の再構築を契機に、全国の皆様に注目していただける島、選んでいただける特産品や体験型メニューを市民、事業者の皆様とともにつくっていくことが肝要であると考えており、施策の実現に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。本市では、他の自治体におくれて、特産品を返礼品としてお送りするふるさと納税制度の構築を図ることとなりましたが、年内の早い時期に事業開始を目指し、取り組みを進めてまいり所存でございます。

次に、配送センターについてでございます。

御承知のとおり、対馬には多くの観光客が来島しております。しかしながら、対馬の新鮮な魚介類などを提供できる飲食店等が少なく、なかなか島の魅力を十分発信することができておりません。この要因として、島内流通によるシステム化が確立されていないことが考えられます。対馬における流通の現状は、生産者から漁協を経て、福岡などの市場へほとんどが流れております。島内の飲食店等は、生産者から直接仕入れるなど、独自のルートで食材を確保しておりますが、思うような仕入れができてない状況であると考えられます。今後、観光客の拡大を図るためにも、対馬ならではの需要と供給がスムーズになる流通システムの構築を検討していきたいと考えております。

今年度、行政、漁協、観光、商工団体などの関連団体が連携するためにも、協議の場として構築委員会を設立し、島内における需要と供給の現状調査及び需要側がどういった食材がどの程度欲しいのか、供給側がどのような食材をどの程度提供できるのかなどの調査を実施するとともに、配送センターの場所や運営主体をどこにするのかについて、構築委員会の中で協議を行い、水産物を先駆けとしてシステムづくりに取り組みます。その状況を見きわめながら、農林産物についても取り入れてまいりたいと考えております。

対馬ならではの流通システムの配送センターを整備することにより、脆弱な島内流通体系を改善し、需要者側へ豊かでおいしい食材の供給を行い、対馬らしい料理を地元市民や国内外から対馬を訪れる観光客が食べられることで、地産地消の拡大と対馬の食材のPRにつながり、水産資源から観光資源へと転化し、観光客が再度来島していただくよう努めてまいりたいと考えております。将来的には、農林産物の流通とあわせ、島外へも発信し、観光の掛け算による食の拡大を図っていきたいと考えております。

次に、博多港と釜山港を結ぶJR九州高速船ビートルへの国内旅客の混乗の件についてお答えいたします。

去る3月3日の参議院予算委員会におきまして、公明党の秋野公造議員が比田勝港での国際航路への混乗による北部対馬住民の利便性の向上、国内旅行者の増加に対馬市が永年取り組んでいる状況を紹介していただき、さらに、税関、出入国審査、検疫の問題がクリアできれば、国際航路に国内旅客を混乗させての運航は可能かとの質問をされました。

この質問に対し、石井国土交通大臣が、対馬の取り組みについて「新たな着想による工夫」と評価をいただき、「問題が解決できれば、混乗は可能であると考え」と回答されたことは、既に新聞報道のとおりであります。さらに、大臣は、「航路開設の動きが本格化すれば、関係者の意向を確認しながら航路開設の手続に対応したい」と回答されております。

また、4月2日には、参議院予算委員会での混乗の件について質問された秋野公造先生が来島されましたので、御尽力いただいていることに対しお礼を申し上げ、その折に、秋野先生からは混乗の実現のため、「今後も協力します」とのありがたいお言葉をいただきました。

対馬北部の振興につながる国際航路への混乗の実現に可能性が見えてきつつあることで、5月の連休明けから担当部長及び職員が、厳原税関支署、福岡入国管理局対馬出張所、福岡検疫所厳原・比田勝出張所、また対馬を管轄する門司税関福岡入国管理局、福岡検疫所を訪問いたしました。私も門司税関に伺い、総務部長を初め担当部署に、混乗の実現について協力をお願いしてまいりました。

国際航路への混乗につきましては、これまでも関係者との協議を重ねてまいりましたが、特に運航事業者であるJR九州高速船とは、ビートルの客室内で国際路線と国内路線のお客様が接触しないようにするための方法について検討を続けております。また、JR九州高速船側にも、対馬経由便を活用した新たな観光ルート開発による集客の増加をもくろんでおり、混乗の実現に向けて前向きな姿勢を示されております。今後とも、混乗の実現に向けて両者の連携を深めてまいりたいと考えております。

また、今回の補正予算にも計上しております、7月下旬、福岡市においてJR九州高速船、RKB毎日放送、九州経済調査会との共催により、国際航路への混乗や北部対馬の観光振興について考える講演会並びにパネルディスカッションの開催を計画しております。私もパネラーの一人として参加し、混乗の実現に対する対馬の思いを述べさせていただくとともに、日本初の試みである国際航路への国内旅客の混乗の取り組みについて、関係機関の御理解、御協力をいただきたいと考えております。

今後の進め方について御説明申し上げます。各出先機関の訪問を終え、税関については、東京の財務省関税局で対応するとの回答をいただいておりますが、他の2機関とは今後どのように進めていくのか協議しているところがございます。できるだけ早い時期に混乗の実現のために解決すべき問題点を洗い出し、関係機関との協議を進めてまいります。

議員の皆様におかれましても、今後も北部振興のさらなる発展並びに北部対馬から本土への交通手段を確保するために、混乗の実現に取り組んでまいりますので、御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、国境離島新法に関する取り組みについてでございます。

議員も御承知のとおり、現在、来年4月1日の施行に向け、国の基本方針の策定、県基本計画の策定、また、29年度の概算要求が並行して準備が進められているところでございます。これにあわせて、これまでに市議会とともに提案をしてきました要望事項や国境離島新法制定期成会の各団体から出されました意見を取りまとめ、県に対し51項目の施策の提案を行ったところでございます。

なお、この51項目の提案施策につきましては、参考資料として配付をさせていただいております。

今後、国の基本指針が示される予定でございますが、有人国境離島に共通する重要な課題であります、航路・航空路運賃や燃油価格の低廉化が優先される施策であると考えますので、県下の市、町が連携しながら、低廉化に向けた要望活動に取り組んでまいります。

また、雇用機会の拡充や安定的な漁業経営の確保につきまして、各施策の重要性、実施効果の検討を行った上で、インパクトのある一体的で連携したプロジェクトとして立案していくことが必要であり、またそのためにも、提案を取りまとめていく体制づくりが必要と考えております。

最後に、悲願でありました国境離島新法を最大限に活用し、対馬の発展のために有効な立案と実施に向け、議会とともに取り組んでまいりたいと考えております。御支援、御協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、浅茅パールライン構想についてでございますが、本市が合併となる前に、旧美津島町と旧豊玉町の間でこの構想について話があったことは、存じ上げております。議員御指摘のとおり、上地区と下地区とを結ぶ唯一のライフラインに万が一、例えば熊本地震の阿蘇大橋の崩落といった事態が発生した場合を想定いたしますと、有事・災害といった緊急時において市民生活へ与える影響ははかり知れないものがあり、先月開催されました道路整備促進期成同盟会全国協議会におきましても、震災に備えるため、幹線道路の耐震化及びダブルネットワークの構築が決議されております。このダブルネットワークと申しますのは、道路が2本以上あるということでございます。

将来的に、これは重要な問題であると認識しております。現在、国境離島新法に対する市の提案施策でも要望を行っておりますが、ハード事業よりもソフト事業の施策が中心であると聞き及んでおりますので、今後示されます国の基本方針を踏まえた上で、国・県と相談しながら検討してまいりたいと考えております。御理解のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） 当初に私が言ったように、市長、私たちは市長の所信表明が市民に詳細にわかりやすく理解してもらえるために、私たち新政会はこの4つの質問をさせてもらっているわけです。今、市長の答弁で詳細にわかりやすく言葉があったわけですから、聞かれている市民はなるほどなということだと思います。私たちも今、新政会といたしましても、ふるさと納税にしても、今、市長が言われたように、対馬の基幹産業の水産業の加工とかいろんなことをやっていくちゅうことですので、ぜひそのようにして対馬市民を救ってもらいたいと思います。

まず、このふるさと納税で日本全国で有名になったのが、言われているように平戸市です。あれだけの小さいまちがいろんな意味でふるさと納税を利用され、もう日本一になっているというのがあるやないですか。対馬も、市長からもこの所信表明の中に訴えてあるように「生産者、加工業者、販売業者と行政が一体となって」と、この言葉が実現できますようお願いしたいと思います。ぜひ、この形をとって、そしてまた、高額なふるさと納税をいただいた方は対馬市準市民と認定し、旅行優待券を贈り、対馬へ足を運んでいただくことで島内の消費拡大。これも、市民は知らない人が多いんです。こういう場を利用して、市長の思いを届けてもらったらいいと思います。

一問一答というより、もう市長が答え出しとるわけですから、私は聞くことはないから2番目に入りますけども、配送センターですけど、これは場所的にさっき聞いたら、まだ協議の上でやっていくちゅうことですよ、この配送センターです。

対馬にしても、いろんないい食材が、市長が言われたようにあります。魚にしても、やっぱり錦織さんが言ったノドグロちゅうただけで、アカムツが3倍にも跳ね上がって、上対馬の漁師さん、上島の漁師さんはえらい収入があつていとお聞きはしておりますので、全てにおいて一言でこういうことができますので、「せんだんご」とか「ろくべえ」、こういうのも代表される、やっぱり対馬の食材だと思いますので、こういうことをフルに活動してもらってやってもらいたいと思います。

配送センターは、今後また協議の上でやっていくということですが、やっぱり全てにおいて利便性を考え、先々にいいところを当然されていくと思いますので、これもそのようにお願いをしたいと思います。

3番目のJ R九州の比田勝・博多間の混乗の乗船のやつですけども、これはやっぱり、上対馬の人にとっては大きな期待感と、対馬にとっても最大限の潤いがある問題と思うわけなんです。今、韓国からが約20万、市長の先ほどの言葉では30万人を目指すということですけども、やはり福岡からこういう混乗で国際的な問題が解決していければ、すごくやっぱりこれ上対馬だけ

やなくて、下のほうの厳原で商売されている人にも大きく影響していくと思いますので、ぜひこれも一日も早い解決をしてほしいと思います。

この中で、一番力になってもらっている秋野公造先生です。この前、4月2日に来島されて、対馬のこの混乗問題、JR問題は一生懸命努力するということと言われたということで、新聞などで報道されましたけども、こういうのも対馬のほうでもぜひいろんな意味でバックアップしてやってもらいたいと思います。

税関問題がやっぱり一つ問題に、大きく僕らも心配していたんですけども、この点は、市長、税関は市長たちが当たっていつている中で、手元に幾らか可能性が、行かれたわけですから、市長たちが当たられた感じ的にどんな感じやったのか、お聞かせ願えればお願いします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 実は、私も門司税関のほうに出向きまして、当初は、まさか本庁の財務省関税局のほうから見えてあるとは聞いてなかったんですけども、私たちが行くということで、わざわざ財務省関税局の上席調査官という方が見えておられまして、一緒に話をさせていただきました。その中でも、話をさせていただく上で前向きに考えてあるということで、今後は出先ではなくて、本省である財務省関税局のほうでこの問題については対応するというのでございますので、私はかなり前に進んだのではないのかなというふうに考えているところでございます。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） そういう心強い言葉をいただければ、聞いている市民も「あ、これ、かなり前向きに進んでいくんじゃないか」という期待感が持てると思うんです。今までやっぱり余りにも漠然過ぎて、本当にできるんだろうかというのが私たち議員としても不安がありましたけども、今、市長たちが実際に当たられて、そういうある程度の関係の方が前向きに動いてくれているということで非常にありがたいと思います。ぜひ一日も早い実現ができますように、対馬市挙げてからでもやってください。

それから、最後の国境離島問題ですけども、これは皆さん御存じのように谷川代議士さん、金子先生、非常に力になっていただき、もう長年の夢だったのがやっと実現したわけです。このことによって、やはり対馬は水産業の島と言っても過言ではないと思うわけです。こういう中で、ここにも市長が所信表明の中でも、先ほども言われましたが、やはり対馬は離島ですので、飛行機にしても船にしても高いんです。もう下手すれば、福岡・対馬と福岡・東京と余り変わらんような航空運賃のとも出てきとるやないですか。

そういう中で、やはり一番ネックになっているのが、こういう国道にしたら海上が国道ってみなされて、いろんな意味が、助成が出ていますけども、この航空運賃・航路運賃の低廉化、市長が言われたとおりです。それから、生活や事業活動に必要な物資費用の負担軽減や雇用機会の拡

充策、安定的な漁業経営を図るための漁船の創業に要する費用負担、これ、漁船の、重油ですけん燃料関係もかなり負担させてもらっていますけども。

やっぱり国境有人離島ということですから、隣はアジア大陸で危険ないろんな国も報道されていますけども、やっぱり漁民がイカ釣りとかいろんな操業をすることで、もう本当にあれだけの漁船が出ることによって監視パトロールができておると言ってもいいと思うんです。あれだけの監視をするっちゃうことは、普通の巡視船ではできません。

これ、上から下までいろんなところで、これだけの漁船が動くことによって、こういう対馬も守られている部分もあると思うわけです。だから、そういうところですから、漁業者にだけかなりしてくれとかやなくて、いろんな意味でそういう低廉化というか、される補助はやってもらいたいと思います。

これ、先ほど言ったように10年間というのが後ろ盾があるわけですから、ぜひ国境離島の来年の4月1日から施行されるわけですから、市長、そういう点は重点的に聞きたいんですけど、大丈夫ですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） もう既に4月20日に参議院本会議のほうでも成立もいたしておりますし、法律として成立をしているということで大丈夫だと思いますというか、大丈夫ですと私も言いたいです。そしてまた、今現在、この中身につきましても国のほうもいろいろと練ってあるというようなこともお聞きしておりますので、先ほども申しましたように、対馬市といたしましても、今現在、組み立てておりますこの51項目を中心に、国のほうへ上げていきたいというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） 私も理解はしているんですけど、先ほど、当初に言ったように市民は詳細にはわからないんです。私たち議会の中でも見る人と見ない人がおるでしょうけど、こういう話が出れば、やっぱり漁民、携わっている人は「ああ、やっぱりやってくれるんだ」というのがわかりますので、そういうことでぜひやってほしいと思います。

それから、次にパールライン構想。当時、美津島と豊玉でかなり進んだ話が検討の話があったんですよね。黒瀬の鋸割岩、あそこから走って行って、最短の距離ですと橋をかけていくと。それによって、たとえ一つ有事があって、万関と今、大船越橋でつながっていますけども、どっかが壊れたらもう遮断です、対馬は。だから、迂回路をする、ぐるっと回る構想がありました。

それと、これをするによって、観光というのは、一方通行では絶対観光にはならないらしいんです。ぐるっと回って、1回転こう回ってくる。対馬の場合、一方通行やないですか。行って戻ってくる。だから、まともに行けば、比田勝まで行っても、帰りはバスの中で寝ている人が



多いってお聞きしているんです。

これがぐるっと回ることによれば、この対馬のかなり西海岸にしても景観のいいところもたくさんありますし、今以上に観光客も呼び込むこともできるし、まして、何かがあったときは、今のままやったら遮断されます。わかりませんよ、いつどういう災害が起こるか、いつどういう有事が起こるかわかりませんが、となれば対馬の島民、市民は、どっかの橋が壊れたときやったら、もう遮断で上も下も行くことができないんです。その点、市長、どうしてお考えでしょうか。お聞きします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私自身も以前、このケーブルテレビの構築にいたことがありまして、このケーブルテレビにつきましても一方通行ではなくて、この対馬全島を網羅するためにもということで、1つのダブルネットワーク、要するに国道のほうと、また今度は今里から水崎、向こうのほうにも空中でつないでおりますけども、そういったふうに複線化というのは重要な問題だというふうに考えております。

そしてまた、先ほども説明いたしましたとおり、全国の道路促進期成協議会の折にも、熊本地震の阿蘇大橋の崩落によりまして、大変、今現在、地域も困っているというようなことで、この対馬に置きかえた場合でも、例えば今、大部議員さんおっしゃられたように、万関橋、そして大船越橋が崩落した場合は、これはもう船で行くしかない。

もう、市民の足が途絶えてしまうというようなことで、ぜひとも必要ではあるというふうには考えておりますけども、ただ、いろいろ情報を聞くところによりますと、当時、180億とかいう高額な事業費だったということで、今でまた算定しかえれば、これは200億円を超えるんじゃないかなというふうに考えておりますので、長期的な視点で考えていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） 言われるように、あのときは日本どころか世界が好景気のときでしたから、いろんな話もあって、そういう構想もあったんです。でも、その当時は、もう黒瀬の鋸割岩のところなんかは現地に行かれたり、いろんな調査も進んでいる経歴はあるんです。

今、確かに費用対効果とか考えれば、莫大な金を投資してまでちゅうのもあるでしょうけども、やはり今後は、この対馬を安定的に生活させるためには、今、市長も言われるように、1つの道筋だけでは何かがあったときやったら、じゃあ大船越橋が壊れました。じゃあ、さっとやりかえる言うても、そう簡単にはできないと思うんです。やっぱり、いろんな事故が、また災害が起こってからでは間に合いませんので、これだけの対馬市民を守っていくがためには、ぜひともこれは今後、確かにお金はかかるとは思いますけども、大きな課題として対馬市民を守るために、

市長、これ考えを言ってほしいし、また、こういう構想を持って行って、こういう議会とかいろんなところにも提案してほしいと思うわけなんです。

お金がかかるからちょっと考えているとか、ちょっと尻込みとかのお話じゃなく、前向きな検討をもう一回、市長、お願いしたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 前向きな検討ということでございますけども、私も決して後ろを向いているわけじゃなくて、これはできるだけ前向きに検討はしたいと思います。

ただし、先ほども申しましたように、かなりの高額な事業費がかかりますので、長期的な視点に立って、前向きに協議等、そしてまた要望等をしていきたいというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 17番、大部初幸君。

○議員（17番 大部 初幸君） 当初の計画は、鋸割岩から四十八谷あたりに渡って貝鮎ですか、貝口ですか、あちらのほうに橋がかかる計画なんです。だから、その180億、200億をかけなくても、また最短のコースがあるやないですか。最初からこの西海岸を回さんでも、近場近場でやっていって行けるんです、万関橋やなくても、浅茅湾ずらっと通していけばできますので、1つの橋だけじゃなく、コースを変えた、同じコースで美津島と豊玉のときの構想図やなくて、もうちょっと金のかからないもう一つのルートを考えてほしいわけなんです。

これ、費用対効果とか考えたらばかなこと言うなという人も確かにおりますけども、今後の課題は、一つが壊れたら、もう船越橋もかなり年数たってますから、いつどうなるかわからないんです。これ言っていかわかりませんが、船越橋も先にかけてかえるとかいう構想があるんですよね。そういうこともありますので、少しルートを考えてでも、市民が万一どこが壊れても巡回されるような構想をぜひともお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

私は、持ち時間がまだたくさんあったんですけども、もう市長の答弁が余りにも明快ですばらしかったもんですから、市民も納得できると思います。そう言って私も新政会の会長としてこれ以上もうお聞きすることはありませんので、ぜひ、市長、この所信表明にうたわれておるとおりを一日も早い実行を望んで、新政会の会長としての質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、新政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 昼食休憩とします。午後は1時から再開いたします。

午前11時54分休憩

午後0時59分再開